

AED を用いた心肺蘇生の流れ

倒れている人を見つけたら…、友人が突然倒れたら…

周囲の安全確認

まず傷病者に近づきながら現場周囲の状況が安全であるかを確認。可能な限り自分と傷病者の二次的危険を取り除く。自分の安全が第一。

呼びかけに反応があるか？

※対象者とあまり顔が近づきすぎないように注意する

ある

傷病者の訴えを聞き必要な応急手当てを行う

ない

大声で応援を呼ぶ。
119番通報・AED 依頼

普段通りの呼吸があるか？

ある

救急隊が到着するまで注意深く見守る

ない・わからない

胸骨圧迫

ただちに胸骨圧迫を開始する。

強く (約 5 cm)
速く (100~120 回/分)
絶え間なく (中断を最小にする)

※エアロゾルの飛散を防ぐため、ハンカチやタオルを対象者の鼻と口にかぶせるようにする。マスクでも代用できる。

胸骨圧迫 30 回と
人工呼吸 2 回の組み合わせ

※成人の場合は、人工呼吸の技術と意思がある場合でも人工呼吸を行わずに胸骨圧迫と AED による電気ショックを実施するだけでよいとされている。

AED 装着

電源を入れると音声で指示がでるのでその通りに行動する。

心電図解析

電気ショックは必要か？

必要あり

必要なし

電気ショック

ショック後ただちに胸骨圧迫から再開

ただちに胸骨圧迫から再開

救急隊に引き継ぐまで、または倒れていた人に普段通りの呼吸や目的のあるしぐさが認められるまで続ける

救急隊に引き継ぐまで AED の電源は切らず、パットも貼ったままにする

※救急隊員に引き継いだ後は、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う。対象者の鼻と口にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れないようにして廃棄するのが望ましい。